

家族で取り組む複合経営

～地域の農地を守る

モデル経営を目指す～

大山町 入江 栄

はじめに

私は、平成 16 年に新規就農者として農業をはじめました。元々両親も専業農家として葉タバコを栽培していましたが、平成 14 年に母親が病気になり葉タバコを廃作し白ネギをわずかですが栽培を始めた頃、「自分も長男でもあるし、先祖代々受け継がれた農地を守っていきたい」という気持ちでサラリーマンを辞め就農する決意をしました。

現在は水稻、白ネギ、ブロッコリーを主として栽培しています、白ネギについては、地区の生産部長、大山町の生産副部長をさせてもらっています。

現在の地域の農業の情勢を考えるにあたり、気象条件、消費動向、国際貿易の面を鑑みて単品目を栽培するよりも複合品目を栽培したほうがリスク分散できると考えます。今回の機械導入を行う事により作業の効率化、規模拡大を図るとともに地域の担い手として高齢化し耕作出来なくなる農地の管理も積極的に行うつもりです。

また、長女が 26 年度に に入學し、将来的には農業後継者としてやっていくつもりであり、作業能率の向上を目指し作業場の改築も検討中であります。

1 現在の状況

① 労働力

本人 歳 年間従事日数 300 日
 父親 歳 年間従事日数 200 日
 母親 歳 年間従事日数 100 日

② 主たる機械、設備

育苗ハウス	1 棟 1 2 5 m ²	平成 23 年雪害により 農協リース
トラクター	1 台 30 馬力	平成 10 年導入 (2000 時間超)
軽トラック	3 台	
ネギ管理機	1 台	
ブロッコリー管理機	1 台	
動力噴霧器	1 台	
作業場	1 棟	(現在改修予定)

③ 平成 25 年度栽培面積

水稲	96 a
白ネギ	70 a
ブロッコリー	200 a

2 今後の栽培計画

品目	26 年	27 年	28 年	29 年
水稲	77 a	77 a	100 a	120 a
白ネギ	90 a	100 a	100 a	120 a
初夏ブロッコリー	60 a	70 a	80 a	80 a
秋冬ブロッコリー	160 a	160 a	180 a	190 a
作業受託 (耕うん)	—	50 a	70 a	100 a
合計	387 a	457 a	530 a	610 a

3 経営上での問題点と対策

- ① 一番の問題点として両親の高齢化があげられます。労働における最大の問題で、本人も年齢を重ね、力仕事が出来なくなっていくと同時にフットワークも悪くなり、少しでも省力化を図ることが重要と考えます。

また、現在アグリスタート研修の研修生を受け入れております。仕事を覚えてもらうまでは正直時間がかかりましたが、仕事を覚えてもらってからは助かる面も多く、人手の重要性に改めて気がつきました。

⇒ 重労働である白ねぎの調整作業を機械導入によって省力化し、効率のいい作業ができるようにしていきたいと思い、「がんばる地域プラン」で共同作業を行うための白ねぎの電動結束機、根葉切調整機を導入する予定です。これによって、共同作業グループの個々の作業労務も軽減できるようになります。

⇒ 将来、長女の親元就農も含め、規模拡大にあたって雇用を行うために、今から準備が必要と考え作業場の改修に取り組んでいます。

⇒ 今後、労働力が確保できれば法人化も視野に入れながら、規模拡大に取り組む、機械化による省力・安定化の経営を目指すつもりであります。

⇒ 研修生に対しては就農後もアドバイスをしながらサポートをしていきたいと思えます。また、ゆくゆくは集落の担い手として連携を取って集落の農地を守っていく関係が築ければと考えています。

- ② 地域の担い手として、周辺の高齢者から今後耕作出来なくなる農地の管理をして欲しいといった相談があり、家族経営の中で作業の効率化を図り、積極的に受けていくつもりです。

⇒ 作業効率化を目指し、今回のプランの他に「がんばる地域プラン」により共同使用のできるプロッコリーの移植機、白ネギの管理機を導入しているので、これを活用し省力化を図りたいと思えます。

⇒ 規模拡大に伴い、育苗ハウスもこれまでのものだけでは対応できなくなってきましたので、今後の面積増にも対応していけるよう地域で新たに導入します。

- ③ 地域を担っていくために、共同利用の機械導入による省力化、効率化によ

る対応を考えているが、今後の規模拡大を考えると農繁期には白ねぎの収穫とブロッコリーほ場の準備での耕耘や肥料散布の時期が重なるため、作業効率が悪くなり時間がかかる。そこで新規導入によるトラクターで作業分担し、効率化を目指す必要がある。

⇒ 栽培計画の規模に合わせた馬力のトラクターを導入することで、作業の効率化を目指し、耕耘作業等によるほ場準備と既存トラクターによる白ねぎの堀取り作業を分担して同時に行え、作業の効率化が図れる。

⇒ 現在所有しているトラクターは、肥料散布、ねぎの堀取り等専用として使用する。

⇒ 今回導入を考えているトラクターでは、キャビン使用により夏場、冬場の身体的負担軽減もありますし、ハイスピード使用により圃場までの通作時間の低減も図られる。

4 具体的な取り組み

	H25	H26	H27	H28	備考
トラクター (34ps) の導入		○			事業費(税抜) 5,360 千円 補助額 2,680 千円
半自動移植機の導入	●				グループで導入
管理機の導入		●			グループで導入
電動結束機の導入	●				グループで導入
根葉切調整機の導入			●		グループで導入
育苗ハウスの設置		●			グループで導入
作業場の増築		△			着工中

○：がんばる農家プラン支援事業活用

●：がんばる地域プラン支援事業活用

△：自己資金で対応

機械導入の補助残（本人負担 1/2 部分）については、スーパーL資金を活用予定。